

## 輸血療法委員会

委員長 榮枝弘司

### 活動内容

輸血療法委員会は、高知県輸血療法委員会と連携を保ちながら、「適正輸血の推進」を実践する事を目標とし、医師（院長、内科系、外科系）、看護師、薬局、医事課、システム管理室、臨床検査技師、外部委員（高知県赤十字血液センター）で構成され、隔月（偶数月）に開催しています。

当院は、高知県内で最初の I&A 認定施設として認められており、安全で適正な輸血療法が実施できるよう努めています。

わが国では輸血による HBV、HCV、HIV 感染症の予防や早期診断目的に、2004 年から輸血後感染症検査が実施されてきましたが、2012 年に輸血用血液に対する HBc 抗体検査の判定基準が厳格化され、2014 年に個別 NAT 検査が導入された結果、推定輸血感染発生数は、HBV で年間 3 件程度、HCV と HIV は輸血感染例の発生がなくなったため推定困難となっています。この様に輸血用血液の安全性が高まったため、輸血後感染症検査の全例実施は必要がなくなり、輸血後の感染が疑われるような症状や肝障害が出現した症例に検査をするように変更しました。また当院では 2014 年 10 月 14 日から入院時に HIV 検査（病院負担）を施行していましたが、その費用対効果および同一患者が入院毎に検査される例もしばしば認め、無駄が多いことから、これまでの S4 入院セット項目を、初回入院セット（HIV 検査を含む）と再入院セット（HIV 検査を含まない）に分けて、主治医が必要と判断した症例にオーダーすることに変更しました。

### 血液製剤使用量と血液廃棄率（2011～2020 年の推移）

血液製剤使用量は年々増加しており、特に血小板の使用量が増加しています。

廃棄率は年々低下しており、2020 年は 0.5% となっています。

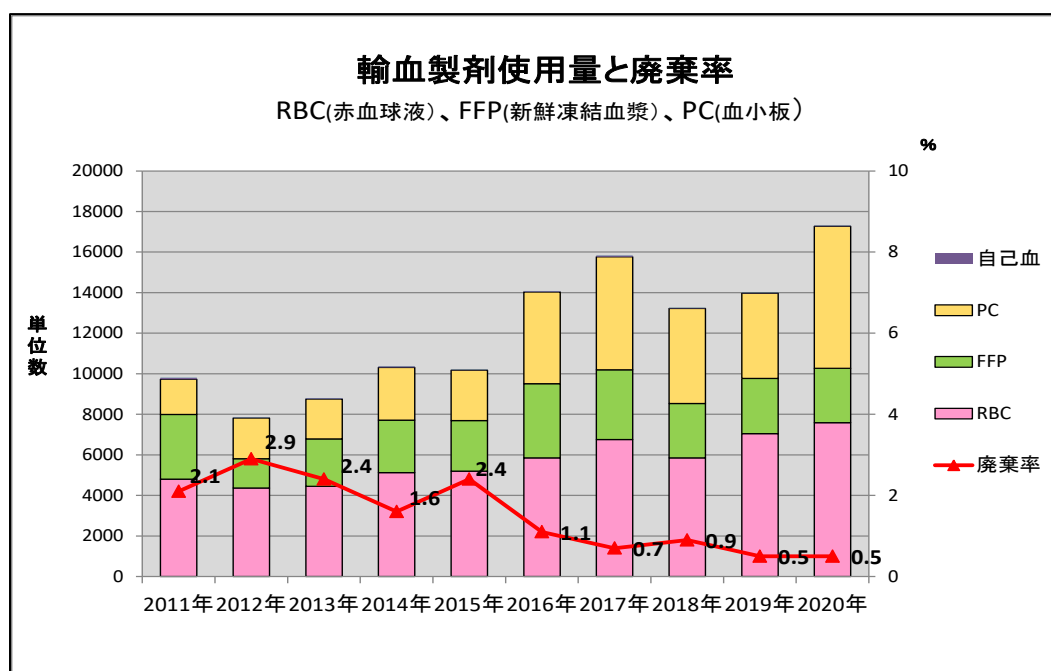


図 1

## 科別使用量

RBC-LR（赤血球製剤）は、心臓血管外科の使用量が1931単位と最多で、循環器内科が1536単位、消化器内科が1154単位でした。FFP（新鮮凍結血漿）の使用量は、心臓血管外科の1740単位が最多で、循環器内科、消化器内科と続いています。PC（濃厚血小板）の使用量は、心臓血管外科が2030単位、血液内科が1970単位でした。

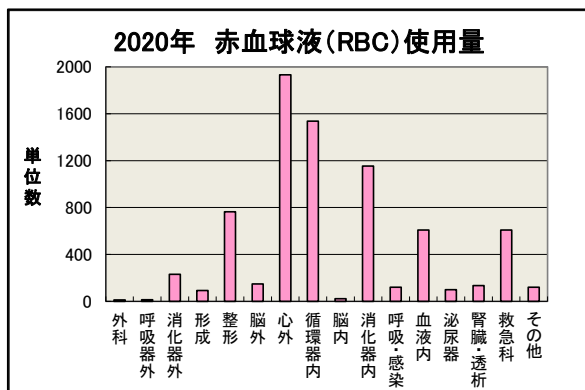


図 2

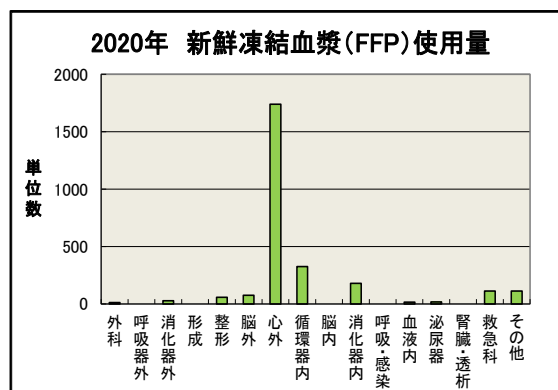


図 3

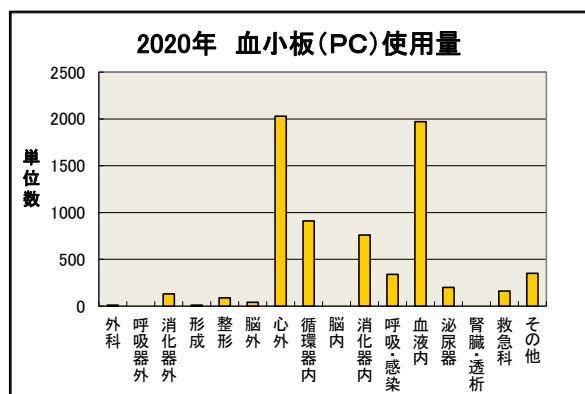


図 4

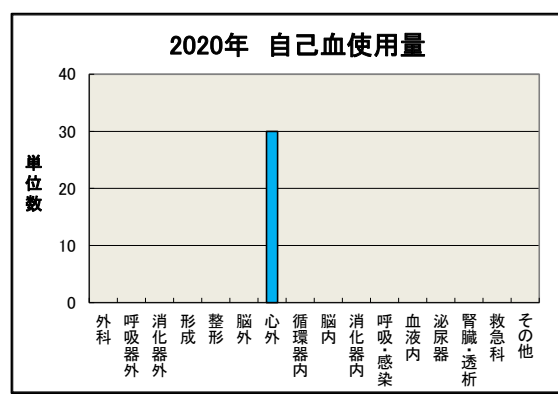


図 5

## アルブミン製剤使用量

2020年の総使用量は昨年に比べ減少しています。科別使用量を見ると、5%製剤、25%製剤ともに心臓血管外科の使用量が最も多くなっています。

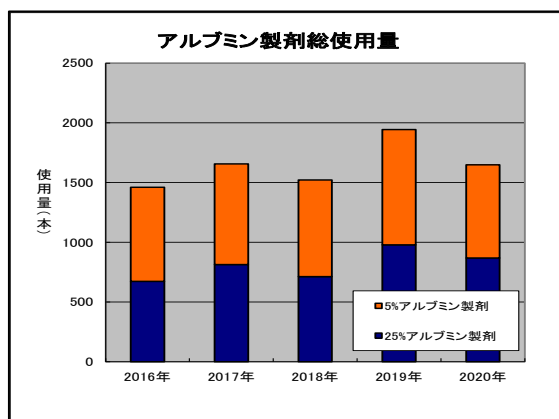


図 6

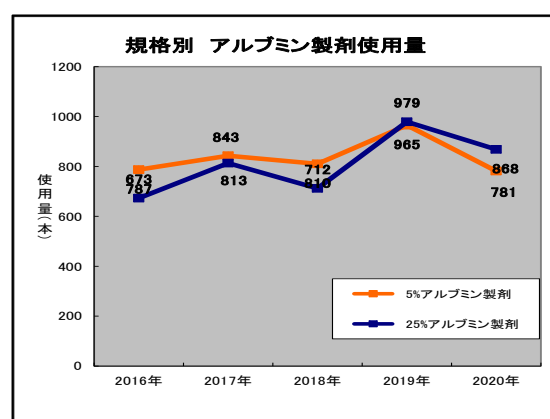


図 7

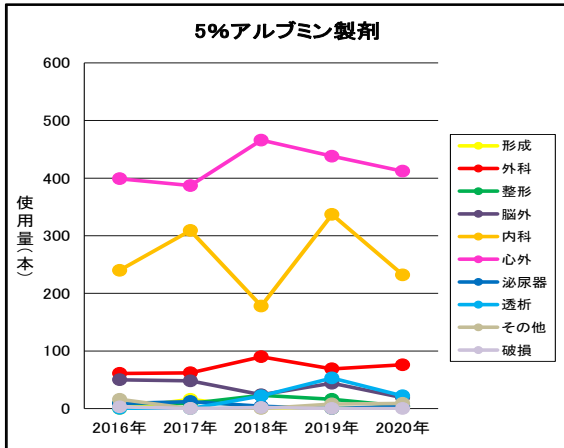


図 8

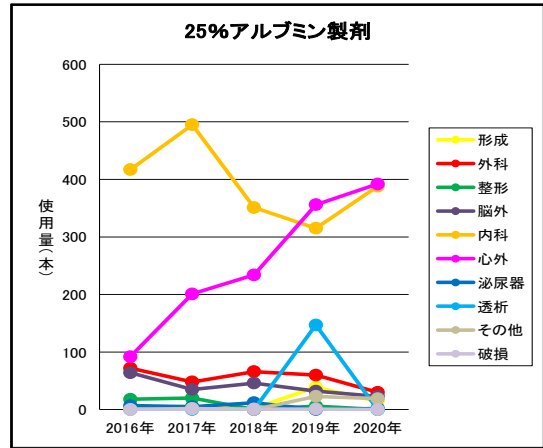


図 9

### タイプ&スクリーン (T&S)

2020年の総オーダー件数は1224件、実施率は14%で、最近5年間はオーダー件数、実施率共にほぼ横ばいです。診療科別のオーダー件数では、整形外科が多く、次いで心臓血管外科、消化器外科と続いています。

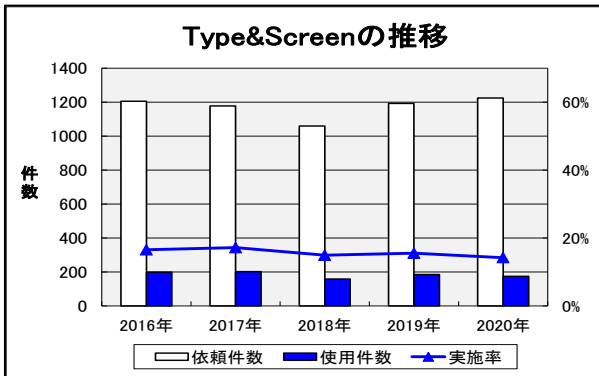


図 10

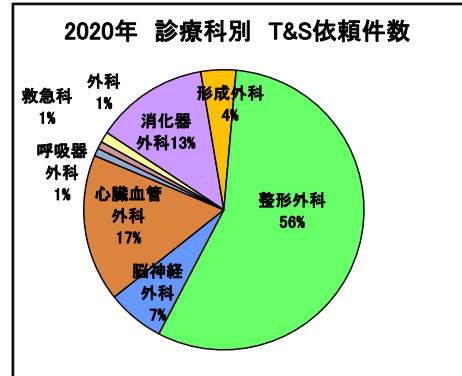


図 11

### 自己血症例数

心臓血管外科手術で開胸・開腹術の合計234件、整形外科手術で109件、合計343件に回収式自己血輸血を施行しました。一方、貯血式自己血輸血は15件でした。

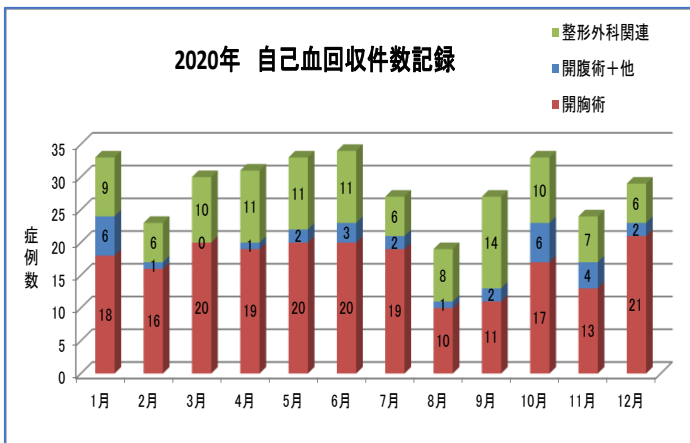


図 12

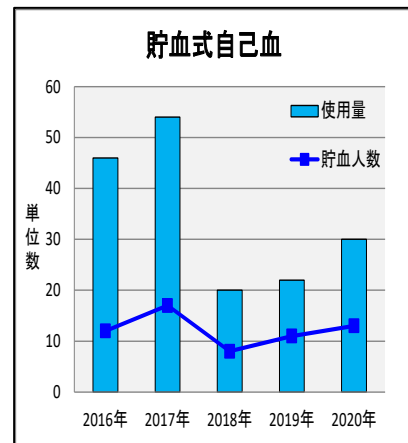


図 13

## 副作用報告

発生率は 3.6%で、重篤な副作用はありませんでした。

表 1

	副作用			使用量	
	バック数	実人数	発生率	バック数	単位数
	189	54	3.6%	5241	17301
【製剤別】					
RBC	68	29	1.8%	3799	7593
FFP	68	12	9.4%	726	2678
PC	53	13	7.6%	700	7000
自己血	0	0	0.0%	16	30

表 2

副作用項目	副作用件数			
	RBC	FFP	PC	
A 非溶血性副作用	74件	77件	71件	
症状項目	①1℃以上の発熱	21	1	5
	②蕁麻疹	8	3	16
	③悪寒		8	
	④戦慄		8	
	⑤冷汗			
	⑥発疹	25	31	29
	⑦掻痒感			11
	⑧悪心			
	⑨嘔吐			
	⑩胸痛			
	⑪顔面紅潮	3	1	3
	⑫血圧低下	3		
	⑬アナフィラキシー様反応			
	⑭ショック			
	⑮ヘモグロビン尿			
	⑯その他	14	25	7
B 溶血性副作用	0件	0件	0件	
急性溶血				
遅延性溶血				
C 輸血後感染症	0件	0件	0件	
HBV				
HCV				
HIV				
その他				
合計(件)	74	77	71	

注：件数は全てバック当たりとします。ただし、A)の症状項目のみは重複可とします。